第 403 回

日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会

《 プログラム・抄録 》

日　時：令和 4 年 12 月 10 日（土）15 時 00 分
会　場：新潟グランドホテル　3 階『悠久の間』
新潟市中央区下大川前通 3 ノ町 2230 番地
TEL：025-228-6111

次回　第 404 回 新潟地方会　予告

日時：令和 5 年 3 月 4 日（土）午後 3 時

会場：未定

演題申込期限：令和 5 年 2 月 10 日（金曜日）

※すべて PC のみの発表とさせていただきます
※一般口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510　新潟市中央区旭町通 1-757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長　冨田　善彦

15：00～15：05

開会の辞　　日本泌尿器科学会新潟地方会会長　　冨田　善彦

15：05～15：45　　座長　白野　侑子

1.　陰嚢内に発生した静脈奇形の一例

新潟大学大学院医歯学総合研究科　腎泌尿器病態学分野
若杉優樹、田﨑正行、晝間　楓、星野さや香、丸山　亮、小原健司、冨田善彦

症例は 28 歳男性。5 歳頃より左精索静脈瘤を指摘され、前医にて経過観察となっていた。27 歳 11 か月頃より左陰嚢の急激な腫大と疼痛を自覚し、当科へ紹介となった。左陰嚢は腫大し、エコーで陰嚢内に 6cm 程度の多房性で分葉状の嚢胞性腫瘤を認めた。左陰嚢内腫瘤摘出術を施行し、病理結果は陰嚢内静脈奇形であった。陰嚢内静脈奇形は稀な疾患であり、若干の文献的考察を交えて報告する。

2.　腹腔鏡下膀胱憩室切除術症例の検討

新潟大学地域医療教育センター　魚沼基幹病院　泌尿器科
中村涼太、原　昇、西山　勉

当科では以前、膀胱憩室と尿膜管遺残合併症例に対する腹腔鏡下膀胱憩室切除術を報告した（Case Rep Urol. 2019 Aug 28;2019:5785189.）。今回、巨大膀胱憩室により自排尿が出来なく、間歇導尿を行っていた患者に対する腹腔鏡下膀胱憩室切除術 4 症例を検討した。4 症例中 3 例は術後間歇導尿せずに自排尿可能となっているが、1 例で残尿が徐々に増加し間歇導尿を併用している。術後間歇導尿せずに自排尿可能な症例は術前膀胱憩室以外の膀胱壁の異常がなかったが、術後間歇導尿を併用するようになった症例は膀胱憩室以外に膀胱後壁に一部肉中形成を認めた。

3.　5-アミノレブリン酸（5-aminolevulinic acid: ALA）製剤内服によっておこる周術期低血圧の検討

新潟大学大学院医歯学総合研究科　腎泌尿器病態学分野
晝間　楓、星野さや香、丸山　亮、星井達彦、小原健司、冨田善彦

筋層非浸潤膀胱癌に対する 5-ALA を用いた光線力学診断は、診断精度の向上が期待される一方、副作用である低血圧にしばし遭遇する。当科では 2018 年 11 月から 2022 年 10 月までの期間、膀胱癌と診断された 71 症例に対して 5-ALA が投与された。低血圧を発症した 53 例で昇圧剤が使用され、そのうちの 2 例において長時間の昇圧剤持続投与を必要とした。重篤な低血圧症例の報告と共に、5-ALA による周術期低血圧について考察する。

4.　腎細胞癌オルガノイドの樹立と患者個別化医療への応用

新潟大学大学院医歯学総合研究科 [1)]、亀田第一病院 [2)]、Actuate Therapeutics, Inc. [3)]

風間明 [1)]、安楽　力 [1)]、黒木大生 [1)]、白野侑子 [1)]、村田雅樹 [1)]、Vladimir Bilim[1、2)]、Andrey Ugolkov[3)]、齋藤和英 [1)]、冨田善彦 [1)]

患者由来の腫瘍組織を用いて 3 次元腫瘍モデルである腎細胞癌オルガノイドを樹立し、薬剤感受性試験を行った。20 例の腎細胞癌患者から腫瘍を採取し、酵素処理を施したのちに腫瘍細胞を Matrigel®内で培養・継代した。組織染色と Whole Exome Sequence を用いて形態学的および分子腫瘍学的な特徴を評価し、原発巣と癌オルガノイドの相動性を確認した。MTS assay を用いて分子標的薬の治療効果を測定した。本研究の知見は患者由来癌オルガノイドを用いた個別化治療に応用できる可能性があると考えられた。

15：45～16：15　　座長　池田　正博

5.　急激な経過をたどった尿管腸骨動脈虫垂瘻の一例

長岡赤十字病院　泌尿器科[1)]、新潟県立中央病院　泌尿器科[2)]、立川綜合病院　泌尿器科[3)]
黒木大生[1)]、乾　幸平[2)]、中山　亮[3)]、佐波達朗[1)]、鈴木一也[1)]、米山健志[1)]

症例は右重複腎盂尿管を有する 74 歳、男性。70 歳時に下部直腸癌にて術前化学放射線療法の後に低位前方切除術を施行。その術中に左尿管腫瘍の疑いで尿管部分切除術を行ったが、悪性所見はなかった。術後尿管狭窄に伴う両側水腎症が出現し、左腎は萎縮した。右尿管の狭窄部はバルーン拡張後に DJ ステントを留置し、定期交換にて経過観察していた。外科手術から 4 年 3 ヶ月後に肉眼的血尿と尿路感染症、腎不全で当科に転院搬送となり、精査にて尿管腸骨動脈瘻が疑われたためステントグラフト留置術を行った。一時的に血尿は消失したものの、留置後 56 日目に発熱と血尿にて当科に緊急入院となった。ステントグラフトの感染と考え抗生剤投与を行ったが奏功せず、尿管動脈虫垂瘻にて消化管内に大量の出血をきたし死亡した。尿管動脈瘻につき、文献的考察を加え報告する。

6. 結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫の治療経験

新潟県立新発田病院　泌尿器科
小松集一、宮島憲生、波田野彰彦

結節性硬化症は遺伝子（TSC1、TSC2）異常により全身に良性の腫瘍が形成され、それに伴い様々な症状が引き起こされる遺伝性の希少疾患である。
症例は 48 歳女性。2022 年 8 月 18 日深夜、右側腹部痛にて当院救急外来受診。収縮期血圧 50～60mmHg とショック状態。CT にて右腎に肝を圧排する巨大腫瘍あり。腎周囲～後腹膜に血腫あり。診断基準より結節性硬化症による腎血管筋脂肪腫破裂の診断で選択的腎動脈塞栓術を試行し止血を得た。今後、エベロリムス投与を行う予定である。
結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫の治療戦略として、腫瘍径が大きく出血リスクが高い場合にはエベロリムスあるいは動脈塞栓術による積極的な治療が推奨されている。薬物療法の課題として、長期投与のデータが乏しいこと、高価であること、副作用管理や投与方法に関する工夫の必要性などがあり、今後さらなる検討が必要と考えられる。

7. 尿道留置カテーテル抜去後のフローチャートに基づいた、木戸病院における排尿管理

木戸病院　排尿ケアチーム
泌尿器科[1)]、看護部[2)]、作業療法士[3)]、地域包括部・社会福祉士[4)]、医事課[5)]
北村康男[1)]、大谷知華、中川明日香[2)]、大野桃花、中村真悠[3)]、永井真理子[4)]、斎藤真子[5)]

木戸病院では 2016 年から排尿ケアチームをたちあげ排尿管理に介入している。尿道留置カテーテル抜去後には、新しく作成したフローチャートに基づいた尿路管理をすることにより、全病棟にて排尿に関する対策がスムーズになされ、Foley 留置症例が減少する傾向にある。

《　休　憩　16：15～16：45　》

16：45～17：35　　新潟泌尿器科同窓会総会

研究会参加者健康チェック票

研究会名：第403回日本泌尿器科学会新潟地方会

日　　時：2022年12月10日（土）

所　　属：

氏　　名：

自宅電話番号：

	チェック日	体温（℃）	症　状※								
		朝	咳	のどの痛み	鼻水・鼻詰り	頭痛	下痢・腹痛	強いだるさ	息苦しさ	その他	左記すべて無
1日目	11月27日										
2日目	11月28日										
3日目	11月29日										
4日目	11月30日										
5日目	12月1日										
6日目	12月2日										
7日目	12月3日										
8日目	12月4日										
9日目	12月5日										
10日目	12月6日										
11日目	12月7日										
12日目	12月8日										
13日目	12月9日										
14日目	12月10日										

自ら行った対処｛　　｝

（例）○月○日医療機関を受診した，○月○日に保健所に連絡した，○月○日市販薬を内服した，などを

※ 症状の各項目に，ある場合は○，すべて該当しない場合には「左記すべて無」に○を付けてください。